

# MIZU WAKA

瑞若会会報 Vol.39

MIZU  
WAKA

## 愛知工業大学同窓会 支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、連絡先等)
3. 支部別原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
4. 支部本部となる連絡場所・連絡先、住所、電話番号記入
5. 正式に支部として承認されましたら、支部別に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける

※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

申込先  
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247  
愛知工業大学同窓会事務局 TEL.0565-43-1032 (FAX共通)  
mizuwaka@aitech.ac.jp

## 同窓会へのご連絡のお願い

住所変更等は大学HPでも受け付けております。お住まい、勤務先などに変更のあった方はぜひご連絡ください。登録いただいた個人情報(同窓会に関する案内の発送のみに使わせていただきます。本人の承諾なく第三者に開示することはありません)。

<http://www.ait.ac.jp/>

ホームページにアクセスしてください。本学の情報をたくさん盛り込んでおります。

## 愛知工業大学 同窓会機関誌 みずわか

発行日——2006年12月  
編 集——vol.39 瑞若編集委員会  
岩科誠司、岩月栄治(チーフ)、大元 司、  
後藤時政、坂野慎介、立枕孝之、前田 賢、  
馬詰忠伍、水野勝教、山田千代美  
発行責任者——建部 謙治  
発 行——愛知工業大学同窓会  
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247  
Tel・Fax 0565-43-1032  
印 刷——株式会社 大東社  
〒494-0008 一宮市東五城字備前25  
Tel 0586-62-1168 Fax 0586-62-1751  
制 作——アクア・ビット



## Contents

### Topics01

第18回「瑞若会定期総会」  
開催 ①

- ⑨ 学生と企業をつなぐインターンシップ
- ⑩ 「大学コンソーシアムせと」で公開講座
- ⑪ オープンカレッジ本山キャンパス
- ⑬ 入試・就職インフォメーション

### Topics02

瑞若会に新たな支部の誕生!  
「教職員支部」が設立されました ⑤

- ⑮ AITオープンフォーラム
- ⑰ がんばるOB
- ⑲ キャンパスニュース
- ⑳ クローズアッププロフェッサー

### Topics03

AIT NOW &  
VISION ⑦

- ㉓ クラブニュース
- ㉔ INFORMATION
- ㉕ 事務局便り

# 第18回「瑞若会定期総会」開催!

平成18年7月1日(土)、名古屋国際ホテルで「瑞若会定期総会」を開催しました。総勢159名の参加者があり、支部長会議に始まり、学科別同窓会なども行われ、なごやかな雰囲気にも包まれた懇親会で幕を閉じました。



### プログラム

13:30~14:20	支部長会議
14:30~15:30	理事会
15:30~16:30	学科別同窓会
16:30~16:45	第18回定期総会
16:45~18:00	懇親会

## 新会長に野寄克己氏(経営工学科第1回卒)が就任

定期総会を経て、太田修氏に替わり、野寄氏が会長として承認されました。

「大学にとって重要な面が2つあります。最高学府としての一面と、法人としての一面です。両方を成り立たせるために、同窓会としてどのように役立てるかを考えていきたい」と抱負を語った野寄会長。「他大学に比べて露出が少ないと感じることもあり、例えばメディアへの働きかけなども重要なことだと思います。同窓会として大学を客観的に見ながら方向性を探りたい」。

総会については、「若い人の出席が少ないので、出やすい同窓会にしていきたい。学科にも参加人数の差があるので、同じ学科、同じ年代の中で核になる人を育てていけば、そこから広がるのでは…」。

同窓会の今後についても、意欲的な考えを示されました。



瑞若会の今後について抱負を語る野寄会長



同窓生が次々と訪れた、瑞若会定期総会の受付

## 各支部から様々な報告や課題が出た、支部長会議

各支部からは、支部長もしくは代理の方が出席し、主に1年の活動の報告や、今後の課題、方向性等についての意見が出されました。

昨年は「愛・地球博」が大学のお膝元で開かれたこともあり、多くの支部で博覧会見学と大学訪問が行われ、大きな活動のひとつとなりました。一方で、「年2回程の集まりに参加するメンバーがほとんど同じ」「若い人への参加を促したい」「広域の支部では開催する場所の検討も重要」「HPにも工夫が必要」など、課題も多く報告されました。

## 総会ではそれぞれの立場から大学のあり方や同窓会について語る

懇親会に先立ち、参加者全員が一室に会した総会。太田前会長からは「入学者が瑞若会の会員になるので、同窓会の会員も友人、知人に広く大学をPRし、より多くの入学者を迎えられるように同窓会と大学が手を取り合う必要がある」と、挨拶がありました。

続いて、後藤理事長・総長は「同窓生からも大学にどんどん提案してほしい。また、30代、40代の若い人たちも積極的に同窓会へ出てほしい」と、語られました。後藤学長は、2009年に迎える50周年に向けて、教育改善に取り組み、国際交流も積極的に行い、学生がグローバルな視野を持つ必要性なども話されました。

また、新たな試みとして、職域支部の立ち上げについて、市川繁富さん(電気工学科45年卒)からの報告(詳細は5ページ教職員支部設立記事)があり、今後の同窓会の発展に期待が寄せられました。



①~③地域ごとの状況が報告された支部長会議 ④旧交をあたためた学科別同窓会 ⑤挨拶をする太田前会長 ⑥同窓生を前に挨拶をする後藤理事長・総長

## VOICE

- 【参加者の声】
- 同期の参加が少ないから寂しい
  - 先輩の声が聞けて、うれしい
  - いい人材を育てるために、大学へも提案していきたい
  - 先輩や先生に会えるいい機会だと思う
  - 若い人の参加が少ないのは残念



同じ会社の先輩、後輩という同窓生



今年卒業したばかりのグループ



後藤学長と新日の会長



## 支部長便り

## 支部同窓会へのご参加を!

7地域の支部同窓会では、定期的な活動を通して親睦を深めたり、情報交換をしたりできるように、同窓生の交流の場を設けています。皆さんもまずは近くの支部同窓会へお問い合わせの上、ご参加ください。

## 〔関東支部〕



この春から、関東支部長をしております。今まで諸先輩の築かれた、伝統と活気あふれる関東支部の活動に加え、さらに幅広い年代層と女性の参加を目指し、副支部長に初の女性を迎えました。今後の活動にご協力よろしくお願い申し上げます。

関東支部長 水野 政光 (45E)

●連絡先/事務局長 細江 龍三 (41K)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-26-5イトウビル5F  
(株)フォーカス技術サービス内  
<http://www12.ocn.ne.jp/~ait/>

同窓生の皆様にはお元気でご活躍のことと推察いたします。卒業生の方々は、愛知工業大学の同窓会活動や支部があるのをご存知でしょうか?大学生活では、同級生かクラブ活動の先輩後輩までの2、3年ぐらいの年齢差が知り合いの中心で、それ以外は見知らぬ他人でしかない同窓生です。しかし、同窓生の集う同窓会は、業種を超え、利害を超えて同窓のよしみというキーワードで先輩や後輩との“学び”と“遊び”の場が提供されています。ぜひ、自分たちの街や地域の同窓会の催しをご確認の上、積極的にご参加くださいますようご案内を申し上げます。

関西支部長 杉浦 亘 (44K) ●連絡先/支部長 杉浦 亘  
〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-15-10 (株)シンプル内

## 〔関西支部〕



## 〔北陸支部〕



数年前に北陸地区の卒業生名簿を受け取り、無作為に抽出して同窓会の案内状を送りましたが、出席者が以外と少なく寂しく感じました。その背景には、自分が出て誰も注視してくれないとか、自分の存在感がないという気持ちがあれば、いたっている方もいるかもしれません。しかし、会合に出て、人の表情やその場にふさわしい言葉や立ち居振る舞い、服装等を自分のものとし、親しい友人を作るというような気持ちで、ぜひ、積極的に出席してください。

北陸支部長 橘 照泰 (43M) ●連絡先/事務局長  
安島 隆夫 (46C) 〒920-0022 金沢市北安江3-11-15 (自)

支部が開設されて9年目に入りました。毎年1月と7月の年2回、同窓会を行っており、開催県幹事が中心になってメンバーを募り、大学からも先生方を招いて近況報告や情報交換を行います。各県の幹事を中心に地区の充実を図り、支部全体が密な組織になるよう常に進化をさせています。愛校心の強いメンバーが多く、早い時期に組織化ができると信じております。

中国・四国支部長 大川博基 (49K)

●連絡先/事務局長 後神 公一 (48K)

〒701-0221 岡山市藤田648 河村電器産業株式会社内  
TEL.086-296-7561 FAX.086-296-7567

## 〔中国・四国支部〕



## 〔静岡県支部〕



本部長も務めた太田会長に替わり、支部長をしています。年2回ほど、研修・交歓会を行い、3年に1回は総会を開き、すでに6回を数えます。また、新聞紙上に告知されるオープンフォーラムにも支部同窓会のメンバーが参加しています。例会参加の増強を行っておりますので、1人でも多くの方からのご連絡をお待ちしております。

静岡県支部長 大林 猛 (43M)

●連絡先/事務局長 竹田 昌治 (42E)

〒435-0052 浜松市天王町142-1 竹八不動産事務所内  
TEL.053-421-4066 FAX.053-421-9753

今年で岐阜支部発足11年目を迎え、兼ねてより懸案の1つであるホームページを立ち上げることになりました。ホームページが会員各位の情報交換、大学との密なる交流、在校生への企業情報等の一助となり、大いに役立つように育てていかなければなりません。そのためには皆さんにもどんどん活用していただき、いろいろなご意見やアドバイスを反映し、内容の充実を図っていきますので、幅広いご活用をよろしくお願い申し上げます。

岐阜県支部長 久富 政俊 (45K)

●連絡先/事務局長 中西 保幸 (51E)

〒501-1183 岐阜市則松5-116-2 一松電気工事株式会社内  
TEL.058-239-9571 FAX.058-239-9574

## 〔岐阜県支部〕



## 〔三重県支部〕



昨年の9月24日に会員約50名が集い、四日市で第4回支部総会を盛大に開催しました。総会では、支部組織をもっと強固なものにし、母校の先生方や後輩、保護者の方々にとって頼もしい存在になれるように、会員の結束を誓いあいました。

三重県支部長 畦地 耕司 (37E)

●連絡先/事務局長 国安院 章良 (55A)

〒512-8064 四日市市伊坂町1693-2 (株)リフォックス

## 瑞若会に新たな支部の誕生! 「教職員支部」が設立されました

2006年9月29日に「教職員支部」設立総会が名古屋国際ホテルで開かれ、50名の会員が出席しました。教職員支部は、同窓会会員で、小・中・高校等、教育機関に勤務または勤務した経験を持つメンバーで構成されています。

支部設立趣旨の説明のあと、支部規約の説明、役員選出などが行われました。その後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中、会員同士、今後の活動や教育等に関する意見交換をしながら親睦を深めました。

支部ができたことで、後藤理事長・総長、後藤学長、同窓会の野寄会長からは、今後の大学の発展、同窓会の活動にも大きな効果があると期待される旨の祝辞が述べられました。

支部長 市川繁富(電気工学科45年卒)  
副支部長 三重県支部/畦地耕司(電気工学科37年卒)  
愛知県支部/杉浦由直(電気工学科47年卒)  
岐阜県支部/加藤久雄(電気工学科37年卒)



支部設立について語る市川支部長



今後の活動が期待される教職員支部の設立総会



畦地眞二 副支部長(瑞若会顧問)



職業が同じで話はずむ懇親会

### 支部設立のきっかけ

#### 市川 繁富 支部長

35年間の教員生活を送り、様々な教育活動を行う中で、母校の仲間がいたらどんなに心強いかなと思ったのが設立の動機です。

最初のきっかけは、同窓会会員の中で約170名の教職員がいると聞いたことです。常々、仲間のいない寂しさを感じていましたし、日本の社会では学

問がおおきな位置付けになっていると思います。また、後輩を教員採用試験や教頭試験などに合格させてやりたいと思うと、やはり組織的に勉強会の開催等が必要です。さらには、大きな力になれば、教育界や母校の発展にもつながると考えたからです。

現在は愛知、岐阜、三重の支部だけですが、ゆくゆくは全国組織にしていきたいと思っています。

## 同窓生メッセージボード

同窓生の皆さんからのご意見や連絡、PRなどを掲載するページです。意見発表の場や、仕事や趣味のPRなど、ぜひ、ご活用ください。

掲載をご希望の方は、同窓会事務局まで郵便、FAX、メール等でお寄せください。

※次年度同窓会誌(瑞若会会報 vol.40)には2007年8月末までにお寄せいただいた中から掲載します

### 第2回徳島県人会を開催しました。来年も開催決定!

8月13日にホテルグランドパレス徳島で徳島県人会を開催しました。当日、徳島市内は阿波踊り2日目でかなりの人出と喧騒に包まれた中、天候に恵まれた夏の日の夕刻から同窓会が始まりました。

出席者が少数ということもあり和気あいあいとは進行。昭和50年前後の卒業生が出席者の大方を占める中、平成10年卒業の藤浦君が出席してくれたことは今後の当会の発展に期待が持てる状況と考えられます。

話題は、県人会親睦ゴルフをこの秋に行うことと、県人会を毎年開催するという。来年もお

盆の時期(8月中旬)に県人会を開催することが決定しました。来年は、多くの方が出席されることを期待しております。



第2回徳島県人会に出席した同窓生

### 土木工学科同窓会「杜朋」の活性化へ向けて!

学科再編にともなって、土木工学科から都市環境学科土木工学専攻に名称変更して3年が経過しました。学科としての卒業生は2007年3月が最後になり、以降は専攻の卒業生となります。1965年の学科開設以来、5300名ほどの卒業生が社会で活躍していますが、そろそろ第二の人生を送っていらっしゃる方もいます。

近年、若い人たちの同窓会離れが顕著になりつつあります。このようなことから、土木工学科同窓会「杜朋」の役員・幹事・事務局は、同窓会活性化と組織力について検討してきました。具体

的な活動としては、昨年から各卒業年の幹事を1名から2名程度に変更。また、職場班の結成の呼びかけと、職場の連絡担当(職場と同窓会とのパイプ役)のお願いなどを行っています。さらに、杜朋のホームページには掲示板を設置して同窓生の交流ができるようにしました。近年、インターネットのコミュニティーサイトが盛んで、ネットを通じて同窓生と交流している人もいます。ぜひ、ホームページなども活用していただければと思います。

●杜朋ホームページ

[http://aitech.ac.jp/~iwatsuki/aitcivil\\_al/](http://aitech.ac.jp/~iwatsuki/aitcivil_al/)

### 同窓会の活性化を願って思うこと

関西に身を置くようになって30年。関西経済に起業家の1人として殴り込み、何が大変だったかという、身寄りが無いこと、すなわち同窓生や先輩のコネ、知人のチャネルがないこと、身1つで商売を切り開く困難さでした。そんな自分にとっては、同窓会があり、先輩や後輩がいることは夢みたくない環境です。

初対面でも同郷や同窓の共通点が、相手の警戒心をどれだけ解きほぐすものか…。異業種の同窓生だからこそその本音が、自己の仕事や自社にとって反面教師としてのアドバイスになっていることか…。相互学習の場として活かせたいのにな。

年代の違いが壁を作っているだろう。もっと、交流を強化してお互いが切磋琢磨できる場はできないものか。皆さんの意見をお待ちしております。

杉浦 亘(S44年経営工学科)

## AIT NOW & VISION

### 大学教育における 新たな取り組みと構想

Goto Yasuyuki

後藤 泰之 学長



#### 50周年に向けて改革 社会や時代のニーズに合わせて

同窓会の皆様には、日頃からご理解、ご支援等をいただき、2009年には開学50周年を迎えられることを、たいへん感謝しております。

50周年に向けて、社会や時代のニーズにあわせた大学を目指し、学部再編を行う計画です。具体的には、工学部の適性規模、情報教育の重要性、実学教育の充実、スポーツに強い大学としての環境づくりなど、様々な観点からの見直しを検討しております。同窓生の皆様には、誇りの持てる母校となるよう、学生の皆さんには満足度の高い学生生活を送っていただけるよう努めて参ります。

また、学生が国際的な視野を養う場づくりをすすめています。かねてから中国の東南大学とは交流をしてきましたが、今後はアメリカや韓国の大学とも密接な交流をはかり、留学の道筋を作りたいと考えています。

#### 「ものづくり」の大切さと 社会に役立つ人材育成への取り組み

少子化や理系離れなど、工学系の大学を取り巻く環境が厳しい中で、若者のものづくりへの関心を高めていく必要性を感じています。日本は、ものづくりで成り立っている国ですから、将来を担う優秀な人材を育てていかなければいけません。本学では以前から、ものづくりに子どもや若者が接する機会を多く設け、様々な取り組みをしてきましたが、今後は他大学や工業高校などと連携を取りながら進めていきたいと考えています。

今回、同窓会に教職員支部が設立されたことは、このような取り組みにも非常に意味のあることで、高校の現場からの意見もいただきながら、連携を深めることができたと期待しております。

また、高大連携の推進をはかるため、愛工大名電高校に高大7カ年一貫教育をする「科学技術科」を設け、優秀な技術者の養成ができる環境と仕組みづくりをすすめております。

今後とも、同窓生の皆さんには、支部等を通じて、ご意見やアドバイスをいただきながら、本学の発展に努めて参ります。

## AIT NOW & VISION

### 社会と産業の発展のために 大学での人材育成が急務

Narita Kunitomo

成田 国朝 教授・教学センター長



#### 社会と産業の発展のために 大学での人材育成が急務

最近では、社会の学生に対する要望も変化しており、それに合わせて大学でも人材育成の改善が必要とされています。今までは大学からは技術者の卵を企業に送り出し、社会で経験を積んでいくのが普通でしたが、最近は企業側からヒヨコにして送り出してほしいという要望があります。

背景の一つには、日本の工学系の教育が国際レベルから見ると水準が低いとされる点があります。そこで技術者教育の向上と国際的に通用する技術者の育成を目的とした日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定制度などを利用した見直しが行われつつあります。本学でも、一部の専攻でJABEE認定に対応をはじめています。

#### チューター制導入による きめ細やかな対応

この1、2年で大学としても、様々な教育改善に取り組んでいます。

その一つが「チューター制の導入」です。教員1、2人が100名以上の学生を指導してきたのを、平成17年度からは1人の教員に10~15名の少人数の学生を割り当て、学生が抱える学業や個人的な悩みの相談にこまめにのって、少しでも休学や退学へ向かうことを防ぐようにしています。導入後、休学をする学生は確実に減少しつつあります。

定着までには、2、3年が必要ですが、成果が期待される制度です。

#### 学生、教員ともが真剣に 授業に取り組むシステム

さらに平成18年度より再試験の制度を廃止しました。学生だけでなく教員も、再試験制度に頼りすぎていた部分がありましたので、授業の内容や評価の方法、授業日数や試験制度を見直す方向で、授業改善を行いました。

改善の一つが、学生に対して何を教えるかをより明確にした「シラバス」の充実です。シラバスとは、授業の内容や到達目標、成績評価の方法や基準などが詳細に書かれた計画書のようなものです。今まで、作成してきたA4半ページ程度のものを、A4用紙1枚にして記載項目を増やし、中身の濃いものにしました。

また、18年度からは試験の週を別に設けて、授業を全15週にしました。成績評価は期末試験の1回だけでなく、授業中の小テスト、中間試験、レポートなど、多方面の評価方法を取り入れるようにしたのも特徴です。

次年度からは、基礎学力のアップをはかるために、数学、英語、物理などの習熟度クラスを充実し、今後きめ細かい教育プログラムを実施していく予定です。

## 学生と企業をつなぐインターンシップ

**愛** 工大では、平成9年よりインターンシップを導入し、春と夏に実施しています。2006年度は、84社の企業のご協力を得て、およそ140名の学生がインターンシップを経験しました。

### 社会人にとって何が必要かを学ぶ

電力供給設備や電気設備、情報通信など公共事業の一端を担う、「株式会社トーエネック」で、2週間に亘り2名の学生がインターンシップを行いました。企業が社会の中で担うべき役割や、「あいさつ」「時間厳守」「身だしなみ」など社会人としてどうあるべきかについての話、配電工事の体験実習などを通して仕事への取り組み方を学びました。卒業生で教育センター配電研修所長である新海正幸さん(昭和47年電気工学科卒)は「学生の皆さんの意欲や前向きな姿勢を感じます。企

業にとっても学生とコミュニケーションをはかり、企業姿勢を理解してもらいたい機会ですね。また、街角で電柱や工事をしている人を見たときの意識も変わるのでは」と語ります。一緒に参加していた他大学の学生の方々からも「社会人として何を求められているか、身をもって知ることができた機会」という声が聞かれました。

### ■インターンシップを体験して

横澤祐樹さん(電気工学専攻3年)

朝の朝礼から真剣な姿を見て感動しました。学生にはない気迫で、今後の学生生活に生かしたい。社会のルールや会社の取り組みを学び、実習も楽しく体験できました。

鈴木太樹さん(電気工学専攻3年)

最初は電気について専門的なことが学べるかと思っていましたが、それ以上に「あいさつ」など、コミュニケーションの大切さを教えてもらいました。実習などを通して電気の危険性も認識できました。



真剣に話を聞く学生たち

横澤さん(左)と鈴木さん(右)

### 学生、企業の双方に有意義な制度

ソリューションビジネスを展開する「NECソフトウェア中部」で3週間のインターンシップを体験したのは3名。最初に2日間、ビジネススキルなどについての研修を受け、その後各職場に配属。OJ D担当者の指導を受けながら、実際の業務を体験しました。企業側は、会社を知ってもらうよい機会であり、学生との深いつながりも生まれるということで、毎年受け入れをしているそうです。ここ2、3年、愛工大からの受け入れをしており、ほとんどが体験した先輩の話聞いて参加するとか。「夏休みにせっかく時間をさいて来ていただくからには、積極的にコミュニケーションをとり、人脈や視野を広げるなど、何かを得て帰ってほしいですね」と総務部の宗宮純子さん。学生の指導をしている卒業生の中川淳さん(昭和62年電子工学科卒)も「自分の学生時代にはこんなよい制度はなかった。会社の内部を知ることのできるまたとないチャンスだと思うので、実りある3週間を過ごしてほしいですね」と語ります。

### ■インターンシップを体験して

牧野翔一さん(情報通信工学専攻3年)

将来、IT関係の職につきたいと思って、インターンシップを申込みました。会社の雰囲気もわかるし、実際に職場で聞く話はとても参考になります。

加藤龍之介さん(経営情報システム専攻3年)

この体験で学んだコミュニケーション能力など、就職の面接時にも役立つと思います。大学では概念でしか知らなかったことを実践で学べるのも貴重な経験です。

鈴木優一さん(コンピュータシステム専攻3年)

メールのマナーなどをはじめ、学生にはない緊張感を体験できました。大学で学んだことを企業でどのように生かすことができるのかがわかり、よかったです。



会社をバックに、左から加藤さん、牧野さん、鈴木さん

## 「大学コンソーシアムせと」で公開講座



①少人数で行われる講義 ②担当の正木教授 ③フィールドワーク(活断層見学)の様子

### 新たな文化活動を目的につくられた「大学コンソーシアムせと」とは?

「大学コンソーシアムせと」は、瀬戸市と近隣の高等教育機関6大学(愛知工業大学・金城学院大学・中部大学・名古屋学院大学・名古屋産業大学・南山大学)が協働して、瀬戸地域の新しい文化活動を創生していくために結成されました。

事業のひとつに、尾張瀬戸駅前の「パルティセと」で開かれる単位互換・共同講座があります。単位修得の扱いになる愛知県下の学生はもとより、一般市民も受講でき、単位認定を受けることができます。



スライドなども交えて具体的に解説

### 2006年度の開講授業のひとつを愛知工業大学が担当

今年で2年目となる2006年度は、「人間の健康と環境」をテーマに3つの授業が開講されました。

愛知工業大学の授業は、都市災害の歴史や災害発生メカニズムなど「都市防災」がテーマ。正木和明教授を中心に4名の先生がそれぞれの分野を担当し、2006年5月9日～8月1日の各火曜日に行われました。時間帯は18時10分～19時40分ですが、「夜の方が集中しやすい」という先生の言葉通り、受講者は熱心に講義に耳を傾けていました。

### 地域に開かれた大学では学生と社会人が一緒に受講

学生からは「はじめて聞く内容も多く、興味がある」「同じ単位でも、いろいろな先生による話が聞けていい」「大学と違う場所なので新鮮に感じる」など、様々な意見が聞かれました。災害について関心があるという社会人の方は「さらに知識を高めて人の役に立てたら」と意欲的に参加されていました。

# Open College オープンカレッジ

今年で2年目を迎え、幅広い年代の皆さんに好評ものづくり体験。

「ものづくり」を体験する公開講座として昨年から本山キャンパスで開講しているオープン・カレッジ。平成18年度は、人気のものづくりに関連する講座から教養講座や語学講座まで、幅広い内容で開催しました。

## 橋の模型による実験に子どもたちは興味津々！ 少年少女科学・ものづくり教室 「強い橋はどこが違う？実際に作って調べよう」

平成18年4月15日(土)  
22日(土)開講

クイズなども交えながら橋について基本的な知識を学び、実際に新聞紙で橋の模型を作って強度測定実験をする講座。「新聞紙で作った橋から、橋に必要な強度や条件を学ぶ大学生向けのブリッジコンテストを子ども向けにアレンジしてあります。同じ材料の橋でも作り方によって強さが違うことを通して、橋やものづくりに興味を持つきっかけになればいいですね」と担当の工学部都市環境学科助教授の鈴木森晶先生。

親子で参加したお父さんは「子どもと一緒に橋

を作りました。手を動かすことは楽しいですね」。親子でふれあう良い機会にもなったようです。参加していた姉妹のお母さんは「先生の面倒見もよく、好きな子どもが集まるので雰囲気もいいですね。昨年も参加したのですが、今年は子どもから参加すると言って申込みました」。子どもたちからも「おもしろい」「また、やってほしい」「ここへ来るのが楽しみ」などの声が聞かれました。和気あいの雰囲気の中、2回の講座が終了しました。



子ども向けにわかりやすく説明



実験の様子に興味深く見る子どもたち

手作りの橋の強度を測定

## 本山キャンパス

エクステンションセンター長  
森 豪 教授

本山キャンパスの公開講座は、現在、二年目の秋季講座を開講しています。2005年の開講当初は、ものづくりの大学の特色を前面に出した講座編成でしたが、その後は、地域社会への貢献という目的に沿って、受講者の希望に応じて、語学講座を中心に講座を増やし、多彩な講座構成で望んでいます。今後も、皆様に愛される講座を提供していきたいと思っています。

## 紙からできる立体の面白さに大人も夢中！ ものづくり文化・手づくり講座「紙の造形講座」

平成18年4月27日(木)、5月11日(木)・25日(木)、6月8日(木)・22日(木)開講

様々な種類の紙を折って立体を作る紙の造形講座。「折り紙は簡単なものから高度なものまで作品の範囲が広く、紙の種類によっても変化を楽しめます」と嶋田紀子先生。

1回目はたくさんの鶴を一枚の紙から折る「つなぎの鶴」、2回目は紙の表と裏を生かした「物入れ」、3回目は自分で染めた紙で折る「花しょうぶ」、4回目は正三角形の紙で折る「白鳥」、5回目は折ったパーツを加えていく「ユニット折り紙」と、作り方も出来上がりの作品も変化に富んでいます。

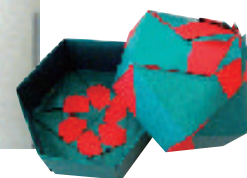
「先生の作品を見て、自分も作りたいと思いました」「お友達にプレゼントしたり教えたりして喜ばれています」など、参加の動機や暮らしの中での楽しみ方もいろいろ。男性の参加者も多く、「手を動かしたくて参加したけれど奥が深いですね。家でも練習していますよ」と折り紙の魅力に引き込まれた様子。「この講座はやる気のある人が多いので、高度な作品にもどんどんチャレンジしてもらうように

しています」と先生も意欲的な参加者の皆さんに応えて、熱心に指導されていました。



ていねいに説明する嶋田先生

高度な折り紙に挑戦する参加者の皆さん



立体的な折り紙の作品

## 平成18年度エクステンション講座一覧(25種31講座)／八草キャンパス

講座名	
1 初級システムアドミニストレータ(秋季試験対策)	18 3次元CAD利用技術者試験
2 基本情報技術者(秋季試験対策)	19 宅地建物取引主任者
3 マルチメディア検定(2・3級)	20 管理業務主任者・マンション管理士 (宅建受験経験者対象)
4 パソコン総合基礎(パソコン検定3級対策)	21 2級建築士
5 MOS試験Word	22 福祉住環境コーディネーター(2・3級)
6 MOS試験Excel	23 色彩能力検定(2・3級)
7 MCP(マイクロソフト認定技術者)	24 電気主任技術者(第3種)
8 Java SJC	25 危険物取扱者(甲種)
9 TOEIC(前期)	26 危険物取扱者(乙種4類)
10 TOEIC(夏季集中)	27 インテリアコーディネーター
11 TOEIC(後期)	28 CGエンジニア検定(2・3級)
12 CAD利用技術者試験2級(前期)	29 公務員
13 CAD利用技術者試験2級(後期)	30 タッチタイピング (日商タッチ2000テスト認定対策/前期)
14 CAD利用技術者試験1級(建築/前期)	31 タッチタイピング (日商タッチ2000テスト認定対策/後期)
15 CAD利用技術者試験1級(機械/前期)	
16 CAD利用技術者試験1級(建築/後期)	
17 CAD利用技術者試験1級(機械/後期)	

## 大学を深く知るチャンス! 多くの人でにぎわった 「2006年オープンキャンパス」

7月29日(土)に2006年夏期オープンキャンパスを開催し、保護者や高校生ら過去最高の1,571人が訪れました。大学や入試に関する説明、個別相談のほか、各学科専攻別に、それぞれの研究にちなんだデモンストレーションが行われました。担当教員や学生から直接話を聞いたり、体験などができる機会とあって、参加者の皆さんは興味深く会場をまわりながら、大学の授業内容などを質問されていました。

大学祭開催中の10月15日(日)にも、秋のオープンキャンパスが開催されました。



熱心に相談する親子連れの姿も目立った入試に関する個別相談コーナー



AITプラザ前の受付

広い学内を行き交う高校生たち



「新聞で知りました。参考になります」と話していた岡崎の高校生。土木工学専攻で「-20℃」を体験



担当の学生から説明を受ける来場者

### 平成19年度入試日程

	入試制度	出願期間	試験日	試験会場	合格発表	試験教科
推薦入試	一般推薦	10/26~11/2	11月11日	本学	11月17日	書類審査・小論文・面接
	女子学生推薦	10/26~11/2	11月10日	本学	11月17日	書類審査・小論文・面接
	総合推薦	10/18~10/23	10月30日	本学	11月6日	書類審査・小論文・面接
一般入試	前期日程	1/5~1/23	1/29・30・31	※1	2月7日	[工]英・数・理(物・化より1科目選択) [経・情]英・数 [経・マ]英・数または国(1教科選択)
	マーク中期	2/1~2/9	2月16日	※2	2月23日	[工]英・数・理(物・化より1科目選択)の3教科受験し、高得点の2教科で合否判定 [経・情]英・数 [経・マ]英・数または国(1教科選択)
	マーク後期	3/1~3/9	3月15日	本学	3月20日	[工]英・理(物)・理(化)の2教科3科目より1科目選択・数 [経・情]外・数・4教科 [経・マ]外・2教科(数・国)7科目より1科目選択・3教科(理・地・公)10科目より1科目選択
	大学入試センター試験を利用する入試一次	1/22~2/1	—	—	2月9日	[工]数・理・4教科(外・国・地・公)12科目より1科目選択 [経・情]外・数・4教科(国・理・地・公)11科目より1科目選択 [経・マ]外・2教科(数・国)7科目より1科目選択・3教科(理・地・公)10科目より1科目選択
	大学入試センター試験を利用する入試二次	2/27~3/9	—	—	3月20日	[工]数・5教科(外・理・国・地・公)より2教科(各1科目)選択 [経]外・4教科(数・国・理・地・公)より2教科(各1科目)選択

※1 1/29(本学・名古屋・岐阜・津・彦根・浜松・静岡・富山・東京・伊那・大阪・広島・岡山・北九州)1/30(本学・名古屋・岐阜・津・彦根・浜松・静岡・富山・伊那)1/31(本学・名古屋・岐阜・津・浜松・静岡・金沢) ※2 本学・名古屋・岐阜・津・彦根・富山

### 全学的な就職支援をしています

就職支援センターでは、全学的な就職指導として、段階的、継続的な就職支援を実施しております。その中で特に3年次より就職ガイダンス(講演・パネルディスカッションなど)、就職適性検査、就職模擬試験(一般常識、基礎学力など)、就職対策講座(SPI、エントリーシート、面接試験他)などを実施。また、学園の後援組織「愛名会」の共催を得て、学内企業展および地元企業交流会を開催し、直接企業と接する機会を学生に与え、積極的な就職活動を推し進めています。

### 学生の能力を活かした就職指導

本学では、就職支援センターによる全学的指導と併せて、各専攻の就職担当教員による就職指導を行っています。専攻別のガイダンスや個人面談を通し、学生をバックアップしながら能力、適性に応じた進路を選択させるように指導しています。就職支援センターと各専攻でサポートする就職指導体制により、就職実績は各界から高い評価を得ています。

### スピーディーな情報収集

本学に来ている求人企業情報を就職支援センターのホームページ上にある、J-NET求人検索において学内および自宅から求人企業情報の検索、公務員に関することや企業説明会開催情報、各企業のホームページにアクセスすることが可能です。

〈URL〉<http://www.aitsyusyoku.com/>

### パソコンを利用できる就職資料室

就職支援センターには、学生の就職活動をバックアップするために就職資料室を設置しています。資料室には、6500社以上の企業ファイルコーナー、本学に来ている求人企業検索ができるパソコンコーナー、就職に関する相談や悩みをアドバイスする相談コーナー等を設け、就職活動にあたり必要な情報を得ることができます。

本学の年次別就職支援		
年次	主な講座等	内容
一年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職に向けての学生生活(講演)</li> <li>○自己発見レポート実施</li> <li>○コミュニケーション講座</li> </ul>	まず大学というところを知ること。そして、自己分析を行いながら、有意義な学生生活の過ごし方等をアドバイス。
二年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己プログレスレポート実施</li> <li>○コミュニケーション講座</li> <li>○インターンシップの受講</li> </ul>	一年間の大学生活を振り返り、次のステップへの動機を明確化し、進路目標をより具体化できるようアドバイス。
三年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各専攻別ガイダンス</li> <li>○就職適性検査</li> <li>○実践模試</li> <li>○コミュニケーション講座</li> <li>○学内、学外企業展</li> </ul>	希望した企業からいち早く内定を勝ち取るため、様々な検査・ガイダンス・講座・企業展を実施。また、Uターン支援も行っている。
四年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的な就職活動</li> </ul>	希望企業からいち早く内定確保



## 各地に集いの場

本学と地域支部の連携により「愛知工業大学オープンフォーラム」が開催され、多くの卒業生をはじめ、学生父母や一般市民の方々が参加しました。

### 第57回 AITオープンフォーラム 平成18年9月9日(土) 京都会場(京都タワーホテル)

#### 「人にやさしい住まい・街」

講師: 建部謙治教授(都市環境学科 建築環境学専攻)

「現代社会において、私達はどうすれば快適に暮らせるのでしょうか。現代人の行動を観察し、住まいや街の歴史的な考察を通して、人にやさしいこれからの公共空間、居住環境について考えてみたいと思います」の提言に沿っての大変興味深い講話。「1.人と人との距離、2.人と環境とのかわり、3.公共空間のデザイン、4.安全・安心・快適な居住環境」と題し、住まいづくり、動物から学ぶ密集による弊害についてなど、事例の紹介を交えて詳細な解説がなされました。



### 瑞若会(同窓会)関西支部総会 平成18年9月9日(土) (京都タワーホテル)

瑞若会関西支部・杉浦 亘支部長始め、役員を含む15人の卒業生と同窓会本部から、石川貴之顧問の他に3人の役員が出席して、瑞若会関西支部総会が開催されました。

議事に先立ち、杉浦支部長から挨拶があり、続いて石川顧問から大学の現状報告等を含めた挨拶の後、議長が選出され、総会次第に沿って議案が提出されました。審議の結果、それぞれ原案通り承認され、現行役員により、平成19年度も継続して関西支部が運営されることとなりました。



### 第58回 AITオープンフォーラム 平成18年9月16日(土) 四日市会場(四日市都ホテル)

#### 「くらしに役立つ数のあれこれ」

講師: 中川覃夫教授(マーケティング情報学科 マーケティング情報専攻)

「しゃかの説法」「小さな数と大きな数」「自然の中の数」「たかが平均、されど平均」「統計のウソ」「ねずみ講でもうける方法」「マネー戦略」と題した講話。日頃、我々が接することが少ない参考資料を交え、さらに事例を加えて興味深い内容で紹介されました。



### 第59回 AITオープンフォーラム 平成18年9月30日(土) 岐阜会場(岐阜グランドホテル)

#### 「司馬遼太郎と時代をゆく」

講師: 森 豪教授(基礎教育センター 総合教育教室)

1.序「司馬遼太郎と時代をゆく」ということ、2.1960年代から70年代そして現代、3.司馬遼太郎の考え方、4.大阪万博と愛知万博、5.愛知工業大学と愛知万博、6.「21世紀☆万博大学」で見えたもの、7.科学技術は文化、8.ものづくりは文化、9.ものづくりは人づくり、10.司馬遼太郎の文化と文明、と題した講話。司馬遼太郎の考え方、司馬とものづくり、そして、司馬と文化・文明などと、司馬遼太郎の考え方を照らし合わせて話がなされ、興味深い内容に参加者が耳を傾けていました。



### 第60回 AITオープンフォーラム 平成18年10月7日(土) 金沢会場(金沢都ホテル)

#### 「インターネットの誕生、その未来、デジタル通信革命」

講師: 近藤高司教授(情報科学科 経営情報システム専攻)

「1963年、ランド軍事研究所(サンタモニカ・U.S.A)のポールバラン氏が分散型通信システムを考案。当初は、アメリカ国防総省による核攻撃に耐える次世代の軍用通信システムであり、その後、多くの研究者による技術開発で、より便利で、高速で、高信頼性で、経済的な通信手段となった。1990年代に入り、民間ビジネス利用に開放され、情報スーパーハイウエー構想、e-Japanとなり、今日では通信の社会基盤である。その未来は無限であり、デジタル通信化の波は我々の生活に大きな変革をもたらすであろう。我々は、インターネットを賢く利用するとともにサーバー攻撃やコンピュータウイルスの脅威に対抗しつつ、サーバースペース時代を生き抜くことになる」がテーマ。それに沿ってデジタル化、インターネットの基本、インターネットの誕生と完全商品化、インターネットの未来、Google Earthについての紹介や、インターネットの現状と将来について明快な解説がなされ、興味深く聞き入る姿が見られました。



### 第61回 AITオープンフォーラム 平成18年10月14日(土) 浜松会場(浜松名鉄ホテル)

#### 「色で売る戦略 -カラーマーケティング-」

講師: 石垣尚男教授(マーケティング情報学科 マーケティング情報専攻)

「洗濯機、炊飯器、冷蔵庫などを総称して“白もの家電”と呼んだのは、かつて色が白であったことに由来。今では多彩な色を揃えた“色もの家電”が出回っている。自動車は好みの色を選択できるパーソナルカラーになり、また、ファッション、化粧品、食品など、身の回りには多彩な色が溢れている。商品に限らず、イベント、販売促進、企業イメージに積極的に色を利用するようになり、色の特性を利用して、商品、広告などにどの色を採用すれば消費者に好まれる印象を与えられるかを調査し、販売に繋げる戦略をカラーマーケティングと呼ぶ。いわゆる“色で売る戦略”で、私たちは、無意識うちに色から様々な影響を受けている」。カラーマーケティングが盛んになった理由としての事例等の説明から、色の基礎知識、カラーマーケティングの実例、ポイントなどについても紹介されました。



### 第62回 AITオープンフォーラム 平成18年10月28日(土) 岡山会場(岡山口イザルホテル)

#### 「今、最もホットな地震対策-緊急地震速報」

講師: 正木和明教授(都市環境学科 建築環境学専攻)

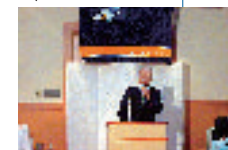
「地震予知は難しく、東海地震でさえ予知は困難と地震学者は考えており、ましてや、東海地震以外の地震については、観測設備も整備されておらず、予知は益々難しい。取って置きの対策は“緊急地震速報”の活用。【只今、地震が発生しました。予測震度6強、地震到着まであと、20秒、19秒・・】といったカウントダウン情報がテレビや携帯電話から流れたら、20秒であなただうしますか? 逃げられますか?】という身近な話に続き、愛知工業大学の取り組みが紹介されました。最先端の技術を活用した「地震避難システム」を大学としては初めて導入し、大学内の地域防災研究センターでは、このシステムを活用した企業向け配信システムの研究に取り組んでいる旨など、わかりやすく解説されました。



### 瑞若会(同窓会)中・四国支部総会 平成18年10月28日(土) (岡山口イザルホテル)

瑞若会中・四国支部・大川博基支部長始め、役員を含む14人の卒業生と同窓会本部から、稲垣慎二副学長(瑞若会顧問)始め、他に4人の役員が出席して、瑞若会中・四国支部総会が開催されました。

議事に先立ち、大川支部長から挨拶があり、引き続き、稲垣副学長から挨拶並びに大学の現状等の報告がなされました。引き続き、議長を選出の後、総会次第に沿って議案が提出され、審議の結果、それぞれ原案通り承認されました。また、役員についても選出され、現行役員により平成19年度から21年度の3年間に亘り、中・四国支部が運営されることとなりました。



## チャンスをとらえて、パリダカ出場の夢を実現



昭和61年 機械工学科卒  
トヨタ車体(株) 総務部広報室パリダカ推進グループ

**伊藤 一氏**  
Ito Hajime



上位独占で喜びにわくチームのメンバー



出発前のミーティング



ナビゲーターをした2004年

### 世界的な耐久ラリーで輝かしい成績を残すチーム

通称「パリダカ」は、ヨーロッパからモロッコを経てセネガルのダカールまで、アフリカ大陸の砂漠や山道など約1万キロを走る過酷なラリー。「TLC (Team Land Cruiser TOYOTA AUTO BODY)」は、1995年からラリーに参戦してきたトヨタ・チームアラコを引き継いで2005年より参戦し、2年連続で上位を独占しました。TLCが出場するのは、市販車無改造ディーゼルクラス。このクラスにこだわるのは、トヨタ自動車から開発・生産委託されて造ったランドクルーザーが市販車ベースのままで勝つことで、その車の真の実力を証明することができ、また参戦することで得られる技術的に貴重なデータを今後の車両開発に活かすことにも繋がると考えるからだそうです。

### アンテナをはっていたからチャンスにも恵まれた

伊藤さんが「パリダカ」に初めて関わったのは、1994年。会社がスポンサーをしていた縁で道が開かれたそうですが、日頃からランドクルーザーに人一倍関心をよせ、新規プロジェクトにも関わったことがチャンスを得るきっかけに。ただ、今のように仕

事としてではなく、休暇をとって参加。「ラリーに出場するのはもちろん初めてで、最初は慣れるのに必死でした」と懐かしそうに語る伊藤さん。道案内、スケジュール管理、メカニックへの情報提供など、運転以外のすべてを任されるナビゲーターの大役を見事に果し、優勝の栄冠を手に入れました。

### ダカールラリーで監督としてチームを率いる

その後ラリーから遠ざかっていた伊藤さんに再びチャンスが訪れたのは1998年、今度は会社のチームメンバーとしてナビゲーターに。2004年には監督も兼任しますが、自分の車がトラブルでリタイア、監督の役目も中途半端になり結果的には他の2台もリタイアという苦い思いをしたそうです。その時の経験を生かし、翌年から監督専任となり、ガンソリン車をおさえて部門総合1位、2位の連覇という快挙を成し遂げます。

2007年は、パリダカ史上初のディーゼル車による部門総合優勝3連覇を目指しているそうです。伊藤さんの監督4年目のラリーは間もなくスタートします。

**ダカール  
2007**

2007年1月6日～1月21日  
ポルトガル(リスボン)  
～セネガル(ダカール)

## 愛工大OBクラブに2人の野球部OBが尽力



昭和57年 土木工学科卒  
名星ディストラクト(株)代表取締役

**金森 伸夫氏**  
Kanamori Nobuo

平成8年 経営工学科卒  
薬品メーカー勤務

**松下 良士氏**  
Matsushita Ryoji



最初の大会のメンバー



岡崎市民球場で行われた試合

### 活躍が期待される愛工大OBクラブ発足

社会人野球は、企業チームが減りつつある中、クラブチームが増えつつあります。そのひとつとして「愛工大OBクラブ」が、2006年3月に発足しました。自身も野球部OBの金森さんが野球部出身の卒業生から相談を受けたのがきっかけで、社会人になっても野球の続けられる環境を整えたいと、1年間の準備期間を経て設立しました。

監督は野球部OBの松下さんが務め、費用面から事務的なことまで裏方に徹する部長兼総監督の金森さんと2人3脚でクラブの運営にあたっています。現在、登録部員20名の半数以上が愛工大野球部のOBで、元プロ野球選手もメンバーにいます。大学側の理解もあり、母校のグラウンドを使わせてもらいながら練習に励み、全日本クラブ選手権、都市対抗の全国大会出場を目指しています。

### 社会も野球の世界もどこか共通点はある

小学生から高校時代までずっとエースだった金森さん。優秀な選手が集まる大学時代はレギュラーになるには程遠い存在で、競争社会の厳しい現実を学んだそうです。「会社経営も同じで、常に緊

張感を持って仕事に取り組みなければ、生き残れる企業にはなりません」。

大学時代は外野手だった松下さんは、野球をやっていたことで人間形成や人脈ができたと言います。「野球も会社もチームプレーだから、共通する部分はありますね」。クラブの目的も野球を通して親睦をはかり、人間形成の向上をはかることだと言います。

### 母校の名に恥じないチームにしていきたい

今年はまだ、初年度ということもあり、思うような結果が残せなかったものの、数年後には都市対抗で名前が出るようなチームにしたいと語る金森さん。「来シーズンは1人でも多くの方に応援していただきたいですね」。

野球部員も募集中とのことなので、関心のある方は、ぜひ、下記事務局まで連絡してほしいそうです。

**お問い合わせ**

事務局 / TEL.052-937-0800  
(株)スポーツティーチングクラブ内

## まるごと体験ワールド

### 趣向を凝らした体験講座

小学生の親子と中・高校生を対象に開かれる夏休みの恒例イベント「まるごと体験ワールド」には、今年も多くの応募があり、「川の生き物の観察会」や「ロボットカーをつくらう」などの人気講座は抽選になるほどでした。8月5日(土)と6日(日)の2日間で、300名以上が参加し、「また来たい」「おもしろい」などの声が聞かれました。

#### 開催講座

●ギリシャ神殿のオーダー模型制作 ●よく飛ぶ竹とんぼを作ろう ●愛ちゃんに続けーめざせ北京オリンピックの星ー ●覗いてみようミクロの不思議な世界 ●新理論でレンズの実験をしてみよう ●温度計、風向計を作ってみよう ●パンコン分解講座 ●パンコン組立講座 ●ロボットカーをつくらう ●超音波で試してみよう ●川の生き物の観察会 ●太陽電池を用いたライントレースロボットを作ろう



「パソコン分解講座」で、夢中になってパソコンを分解する参加者



パソコンの分解に真剣な表情で取り組む参加者の皆さん



「ロボットカーをつくらう」の講座でプログラミングに取り組む参加者

## 2006年AITサイエンス大賞発表!

高校生が日頃の理科や科学のクラブでの成果や課題研究などを発表する場としてスタートした「AITサイエンス大賞」。5回目となる今年は、11月18日(土)に、「自然科学部門」と「ものづくり部門」の2部門にわかれて、25校43件のステージ発表とパネル展示発表が行われました。

エントリーした高校生の皆さんは、緊張した面持ちながらも、研究成果が伝わるように工夫を凝らした展示やわかりやすい発表に努めて

いました。審査員の先生方からは様々な質問があり、参加した皆さんの真剣に答える姿が見られました。

厳正なる審査の結果、優秀賞、奨励賞、努力賞が決定しました。

■「自然科学部門」優秀賞  
岡崎高校  
岐山高校・一宮高校  
岐阜北高校

■「ものづくり部門」優秀賞  
愛工大名電高校  
愛知教育大附属高校  
半田工業高校



研究の成果を説明



審査結果の発表と表彰

## 第5回 ロボカップジュニア 愛知工業大学大会開催!

10月15日、自律移動型ロボットによる世界的なサッカー大会「ロボカップ」のジュニア部門予選が行われました。参加者は大会に先立ち、8月26日、27日にロボットの組み立てやコンピュータによるプログラミングをしました。今年は小学4年生から中学1年生までの5チーム10人が、自作のロボットを持って大会に出場。家族の声援を受けながら熱戦を繰り広げた結果、小学5年生同士の長江君・大塚君チームが接戦の末に逆転優勝しました。



迫力のゲーム展開



プログラムを調整



予期しない動きに驚きの声



健闘した上位3チーム



「まさか優勝するとは思わなかった」「うれしい」と喜びを語る優勝した二人

## 第46回 愛工大祭開催! 10/11~15



にぎやかなセントラル広場前



健闘した上位3チーム



模擬店は来場者に人気

今年のテーマは「スケッチブック～みんなの色でうめつくそう～」。恒例の工科展や、お笑い芸人のライブ、カジノ、子ども向け遊び場などの楽しいイベントも盛りだくさん。最終日の日曜日はオープンキャンパスも開催され、高校生や家族連れなどの姿も多く見受けられました。



12号館屋上に設置された太陽光パネル。「この装置で10キロワットの出力がでます」と一柳教授

CLOSE UP PROFESSOR

# 環境に優しいエネルギー供給を目指し、 研究開発プロジェクトを推進。



研究室のチームの一つが実験しているマイクロ水力発電の実験装置と雪田助教授



愛・地球博の会場に展示されていた「絵の出るLED風車」。研究室の学生による手づくり



電気学科電気工学専攻  
一柳 勝宏 教授(右)

Ichiyangi Katsuhiko  
PROFESSOR

雪田 和人 助教授(左)

Yukita Kazuto  
ASSISTANT PROFESSOR

## 環境に優しいエネルギー供給を目指し、 研究開発プロジェクトを推進

自然エネルギーを利用した発電に関する研究をする一柳教授と、電力の安定供給のための制御手法や制御装置の開発を研究する雪田助教授。二人が中心になってすすめてきたコンソーシアムの研究が平成18年度文部科学省「社会連携研究推進事業」に採択され、プロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトは「マイクログリッド導入による次世代型電力供給システムの開発」で、地球温暖化の防止に有効とされる自然エネルギーを活用するためのシステムづくりです。

「マイクログリッドというのは、太陽光、風力、燃料電池などの複数の新エネルギーによる発電設備と複数の需要設備をまとめてコントロールし、小さな地域で電力の自給自足を行うシステムです」と雪田助教授。「すでに、太陽光、風力などの発電システムは導入されている地域も多いのですが、安定供給や電力の品質など課題をかかえています」と一柳教授。そうした課題を克服し、今後5年間かけて、自然エネルギーによる発電システムを自治体や企業と一体で研究開発を行います。

一柳教授によれば「具体的には、12号館の屋上に太陽光パネルを20kW設置し、学内に風力発電機を3基設置します」。自然エネルギーの効率の活用を目指し、実証実験を通して発電能力の向上や新発電システムの開発、電力貯蔵装置

の考案等をしていくそうです。

全国の大学の中で、はじめての試みとのことで、成果が期待されています。

## 「ものづくり」を通して 学生や子どもたちが学ぶ機会を

研究室の取り組みとしては、学生チャレンジプロジェクトの一貫で、バッテリーカーレース「ワールドエコノムーブ」への学生の参加を推進しているそうです。手づくりのバッテリーカーを使い、規定時間内にどれだけ多くの距離を走れるかを競う省エネルギー競技です。

「製作の過程で基礎科目の知識が必要になり、その大切さがわかります。また、レースに参加することで、失敗して問題点を解決したり、他の企業や学生のチームと接する中で新しいことを学んだりできるのが大きいですね」と雪田助教授。学生の自発性、自主性を促し、後押しするのが先生方の役目とか。2006年第6戦、豊田市で行われたレースでは、努力が実り3位に輝きました。

学生の指導だけでなく、子どもたち向けの講座も本山キャンパスで行っています。「隔週の土曜日、理科教室や毎週木曜日にロボット教室などを開催していますので、ぜひ、同窓生の子どもさんたちにも参加してほしいですね」。ものづくりの楽しさを伝えたいと、学内の先生方と協力しながら、意欲的に取り組んでいます。

## サッカー部

部員数:30名  
代表者(主将・部長):佐々木 晋作



### ワールドカップの波に乗って東海1部へ!

愛工大サッカー部は“東海1部リーグ昇格”を目標として日々の厳しい練習に取り組んでいます。部員全員の意識が高く向上心もあり、目標を達成するために努力することのできるチームです。今年は春からチームの状態もよく、様々な大会でベスト8、ベスト16等の成績を残していますが、誰一人と満足することなく“優勝”というさらな

る上の目標に向かって練習しています。まもなく始まるリーグ戦には、4年生が中心となりチームをまとめ、全員サッカーでリーグ戦優勝を達成し、東海1部リーグ昇格を掴み取ります。そして、愛工大サッカー部からプロ選手が出せるように、これからも日々努力して頑張っていくますので応援よろしくお願いします。

①上位を目指し、パワーあふれる部員たち  
②③激しい練習の様子 ④佐々木主将

## 土木研究会

部員数:20名  
代表者(主将・部長):塚田 和史

### 土木発展への懸け橋を作製中!

土木研究会では、大学で学んだことと、最近の土木関係の出来事とを組み合わせ研究しています。日頃から部員同士で協力し合い、地道な努力を積み重ねており、時には夜遅くまで残って作業をする日もあります。その成果もあり、2005年の大学祭工科展においては、豊田市にある矢作川橋の特徴である「波型鋼板」について発表して、優勝することができました。また、出展した模型は見に来ていただいた方々にとっても好評でした。今後も、学生の目線で“土木”を見つめ、学生だからこそ斬新なアイデアで土木技術の向上を目指し、大学祭工科展の2連覇を達成したいと思います。

①塚田部長 ②模型を前に目標に向けて団結する部員たち



## 陸上競技部長距離

部員数:26名  
代表者(主将・部長):中嶋 章

### 練習の足跡が全国への道しるべ

我々陸上競技部(長距離)は全日本大学駅伝の出場を目標として、日々厳しいトレーニングに取り組んでいます。練習は早朝6時からと、授業後の16時半から行っています。春、夏、冬には菅平高原や黒姫高原等で合宿を行い、個々の実力向上を目指しています。

昨年、東海学生駅伝においては、同タイムながら胸の差で負けてしまい、全日本出雲駅伝への出場権を逃し、とてもやしい思いをしました。今年度はその反省を踏まえ、個々の競技能力向上につとめ、昨年のくやしい経験をバネに、チーム一丸となって全国大会への出場を果たします。



①厳しいトレーニングをする部員たち ②中嶋主将  
③個人の力を結集して試合にのぞむ部員たち

## Robot-Art部

部員数:22名  
代表者(主将・部長):泉 貴洋

### ロボットと供に一步一步挑戦

Robot-Art部は機械学科を中心としたクラブで、主な活動内容はロボットの製作です。2、3年前は“相撲ロボット”の製作に取り組んできました。そして、学内ロボットコンテストで優勝、全日本相撲ロボット大会東海大会にも出場しました。ここ数年で部員が増え、現在では“二足歩行ロボット”の製作を中心に活動しています。今年度の目標は、二足歩行ロボットの大会である『ROBO-ONE』に出場したいと考えています。まだまだ力不足ではありますが、チーム一丸となって上位入賞を目標にしています。今後も、各自がロボットに対する知識、創造力を高めて、いろいろなロボット製作に挑戦していきたいです。

①泉部長 ②チームワークでロボット製作に取り組む部員たち



管弦楽団

部員数:38名  
代表者(主将・部長):黒川 智司

若さあふれる演奏を届けます

愛知工業大学管弦楽団の主な活動は、秋に開催する定期演奏会や老人ホームなどでの演奏会、卒業・入学式での学歌演奏などです。

去る、9月17日(日)に名古屋市青少年文化センターアートピアホールにて第9回定期演奏会を開催しました。曲目はメインにボロディンの交響曲第2番、他にボロディンの『歌劇<イーゴリ公>序曲』、『中央アジアの草原にて』も演奏しました。

1年間を通して企画と練習を行い挑んだこの演奏会に、当日は約300人の観客が集まり、団員の若さあふれる熱演に耳を傾けてくれました。

第10回定期演奏会を来年秋に開催する予定です。ぜひ、お出かけください。



演奏会に向けて練習にはげむ部員たち

日本代表メンバーに選ばれ、海外チームと対戦した長谷部選手!

愛工大野球部の投手として活躍する長谷部康平選手(マーケティング情報専攻3年生)。2006年7月に行われた日米大学野球選手権大会、8月の世界大学野球選手権大会、11月のアジア競技大会の日本代表に選ばれました。夏の2つの大会では他大学の選手たちとチームを組んで、海外のチームと対戦。長谷部選手は日米野球では5試合中3試合に登板、世界野球ではハワイとの試合にリリーフで出場し、2回を無安打に押さえて勝利に貢献しました。

名の知られた選手ばかりの中に、自分が選ばれたときはびっくりしたと言う長谷部選手。「日米大学野球選手権大会は、自分にとっては初めての大きな大会で緊張しましたが、チームにはすんなりとけ込めて、メンバーともいい関係が築けました」。また、海外の選手を相手に投げ、緩急つけたピッチングの大切さを実感したそうです。「日本のバッテリーは直球で

も打ち取れます。でも、体格や力の違う海外のバッテリーには、直球と変化球の投げわけが大切だと思います」と話す長谷部選手はスライダーが得意とか。

野球は小学2年生からはじめたそうですが、高校まではやらされている感じだったのが、大学に来て自分で考えながら練習を重ねていると言います。「ずっと続けたいですね。できればプロ野球に行きたい」と抱負を語ってくれました。今後も様々な試合で活躍する姿が見られそうで、楽しみです。

日本代表のユニホーム姿で野球への思いを語る長谷部選手



INFORMATION

事務組織統合にともない  
新本部棟(仮称)が八草キャンパス内に完成!



池に面して建つ新本部棟(仮称)の完成パース

2007年2月に学園と大学の事務組織が一歩化されるのに備え、名古屋市千種区若水に置いていた学校法人名古屋電気学園(愛知工業大学、愛知工業大学名電高等学校、愛知工業大学附属中学校、愛知工業大学情報電子専門学校)の法人事務を愛知工業大学八草キャンパスに移転します。

それにともない「新本部棟(仮称)」を八草キャンパス内に建設中です。新本部棟(仮称)は、鉄骨3階建て延べ床面積2,547平方メートルで、大学入り口の池に面したテニスコート西側に2006

年12月末に完成します。1、2階は事務室、3階に理事長室や学長室などのほか会議室や応接室などを設置する予定です。また、オープンデッキで第2本部棟入口前から2階に接続します。



7月1日に行われた新本部棟(仮称)の起工式・安全祈願祭で鉄入れをする後藤理事長・総長

万博会場に使用されていた場所、学園へ返還

八草キャンパスの道路を隔てた北側の土地(瀬戸市吉野町)は、万博瀬戸会場用地として学園が博覧会協会へ貸与していたものです。万博終了後の各構築物等の撤去工事が完了し、平成18年5月に学園へ返還されました。今後は、大学のゼミ、大学行事、駐車場等として活用していくことになる予定です。



市民パビリオン付近跡



海上広場付近跡

人事のご案内

退職教員紹介 ●平成18年3月31日付で退職を迎えた先生方からのコメントをご紹介します。



経営情報科学部情報科学科 教授

井上 博進

平成7年に経営工学科の教員として奉職して以来12年間、大変お世話になりました。特に印象深いのは学生との触れ合いです。ゼミや卒業研究などを通して学生に接していると、「今の若者は…」などという批判的な表現は必ずしも当てはまらない感じがします。

昨年、「愛・地球博」にあわせて当大学が開催した「21世紀・万博大学」は毎回聴講しましたが、当一流の講師陣の話に大きな感銘を受けました。

今年の4月からは就職支援センターで嘱託としてお手伝いしておりますが、少しでもお役に立てればと考えております。



工学部応用化学科 教授

稲垣 道夫

平成11年からお世話になりました。在任中、炭素関係の研究に集中できましたのも応用化学科、特にセラミックス化学研究室の先生方のご理解と、学部や大学院の学生諸君の協力と努力のおかげであると感謝しております。

在任中に日本、アメリカでの師と仰ぐお二人の先生と同じ賞をアメリカ炭素材料学会からいただいたことは、この上ない喜びでした。文部科学省の学術フロンティア推進事業と経済産業省の地域新生コンソーシアムが平成18年度まで継続であることから、もう少しお世話になることになりました。よろしく願い申し上げます。

退職教員 (H18年3月31日付)

工学部応用化学科	教授	稲垣道夫
経営情報科学部情報科学科	教授	井上博進
基礎教育センター総合教育教室	教授	吉川幸雄
愛知工業大学名電高等学校	教頭	中野正紀 (39E)

基礎教育センター

総合教育教室	講師	張新力
総合技術研究所		
研究支援本部総合技術研究所	助教授	渡邊藤雄 (40C)

人事異動 (卒業生関係)

新任	愛知工業大学情報電子専門学校	講師	村瀬正敬 (55R)
昇任	情報科学科経営情報システム専攻	教授	伊藤 雅 (59K)
任命	愛知工業大学名電高等学校	教頭	杉浦由直 (47E)

新任教員 (平成18年4月1日付)

工学部		
電気学科電気工学専攻	教授	穂積直裕
機械学科機械工学専攻	講師	中山雄行
都市環境学科建築学専攻	講師	中井孝幸
経営情報科学部		
情報科学科コンピュータシステム専攻	教授	阿部圭一
情報科学科コンピュータシステム専攻	講師	伊藤暢浩

瑞若会 (愛知工業大学同窓会) 役員名簿 (平成18年7月)

名誉最高顧問	後藤 淳	42R 山岸 昭彦	59R 坂本 常豊
名誉会長	後藤 泰之	43R 河辺 和夫	39C 伊豫田美津男
名誉副会長	澤 五郎	62R 岩田 博之	41C 松尾 光正
		63R 水野 勝教	42C 安田 伍朗
名誉顧問	鷺見 哲雄	H6R 岡田 宏行	44C 高田 宣章
	伊澤 康司	39C 木村 好宏	45C 田中 秀夫
	竹松 英夫	45C 尾之内千夫	46C 安島 隆夫
	鷓飼 正和	46C 立木 次郎	49C 青山 裕充
		54C 榎本 秀樹	56C 楓 美智彦
会長	41K 野崎 克己	55C 桜井 隆	60C 玉置 徳人
会長代理	41K 鈴木 達夫	63C 松本 裕一	61C 佐藤 暢也
副会長	41E 石田 雄彦	41M 立川紘一郎	H1C 太田 勝矢
	42M 岩永 弘之	42M 原田 正樹	42M 原田 稔
	45E 水野 政光	43M 林 二一	43M 高原 光立
	46D 加藤 信夫	45M 渡辺 修	45M 飯田 穂
	46A 松本壮一郎	47M 神戸 誠	45M 志賀 正直
	46C 山田 英介	54M 水谷 充	47M 柏本 増幸
	46R 飯吉 僚	41K 掛布 毅	47M 古市 裕司
	48K 近藤 高司	41K 細江 龍三	48M 中村 明
	49K 大川 博基	44K 杉浦 亘	H2M 北川 一敬
		44K 若杉 和彦	41K 菅 八三郎
顧問	37E 有川 満泰	45K 久富 政俊	42K 近藤 恭弘
	37E 加藤 厚生	55K 大元 司	43K 松廣 尚佳
	37E 若山 茂	42D 河合 壹	44K 高場 理守
	38E 大塚 敏雄	43D 羽柴 喜彦	44K 松沢 勝義
	38E 細江 文彦	44D 松浦 次夫	46K 長江 俊一
	38R 高田 良弘	46D 奥村 哲夫	48K 余語 孝文
	40E 小嶋 憲三	61D 岩月 栄治	50K 矢野 敬典
	40C 稲垣 慎二	46A 下田 哲壮	51K 佐藤 友泰
	41K 石川 貴之	48A 光成 仁志	53K 前田 清二
	41K 岩田 和彦	49A 山田 和夫	62K 奥田 好弘
	41E 太田 修	51A 道家 秀男	H5K 横井 浩治
	42M 大葉 正之	52A 杉野 丞	47D 福井 猛朗
		55A 国安院章良	51D 坪井 利弘
監事	41E 前田 昭徳	55B 細野 耕司	60D 近藤 直樹
	46C 毛利 隆治	55B 山田 政人	62D 後藤 鈺蔵
	51E 加藤 修一	55B 横井 良夫	H4D 近藤 信彦
		H5J 木下 毅	47A 居村 年男
事務局長	48A 建部 謙治	H6J 下村 光男	49A 竹山 明英
			49A 星野 正純
事務局次長	49K 川出 善晴	理事	51A 新貝 貞夫
	49K 立枕 孝之	41E 落合 鎮康	57A 澤野 美幸
	59K 伊藤 雅	41E 成田 信裕	60A 山田 耕司
	H4R 津田 紀生	42E 川原 雄一	55B 加藤 幸範
		42E 野村 勝美	55B 丹羽 利信
常任理事	37E 畦地 耕司	43E 一柳 勝宏	55B 長谷川幸治
	41E 遠山 鎮雄	47E 渡部 進	55B 松田 茂久
	41E 寺本 和幸	48E 藤岡 経丸	H4J 石黒 孝
	42E 竹田 昌治	56E 桜井 伸彦	H4J 民田 晴也
	45E 美頭甲子雄	38R 小島 幹雄	H5J 伊藤 博司
	46E 尾島 仁	45R 澤田 文夫	H6J 国立 忠秀
	54E 三宅 覚	50R 近藤 修司	H6J 濱口 幸久
	55E 宇田 秀樹	50R 山本 久雄	
		56R 米永 裕司	

瑞若会 平成18年事業報告(平成18年1月1日～18年12月31日)

月	本部の会議	各種行事
1月		□「みずわか vol.38」会員へ郵送(1/10) ◆北域支部「中国・四国支部新年懇親会」(1/28)
2月		
3月	第5回事務局会議開催(3/2) 第5回総務常任委員会開催(3/2)	▲私立大学同窓会連合会定例事務局長会議(3/17) □平成17年度 卒業式(3/23)「瑞若賞」贈呈
4月	(臨時)事務局会議開催(4/27)	□平成18年度入学式(4/5)新入生に「START-UP」配布 ▲同窓会管理システム改新 □新会員のデータ入力 □「みずわか」編集委員会開催(4/17)
5月	第1回事務局会議開催(5/25) 第1回総務常任委員会開催(5/25)	□「みずわか」新旧合同編集委員会開催(5/11) □新会員の同窓会費入金処理
6月	次期役員推薦委員会(6/2) 第2回事務局会議開催(6/22) 第2回総務常任委員会開催(6/22)	▲愛知県私立大学同窓会連合会三役会開催(6/6) (ホテルキャッスルプラザ)
7月	○第18回「瑞若会」定期総会開催(7/1) (名古屋国際ホテル) ※理事会・支部長会・学科別同窓会・総会(7/1) 第3回事務局会議開催(7/31) 第3回総務常任委員会開催(7/31)	▲愛知県私立大学同窓会連合会平成18年度総会(7/14) (ホテルキャッスルプラザ) ◆地域支部「中・四国支部懇親会」(7/8) ◆職場支部「近藤グループ懇親会」(7/28)
8月		
9月		▲関西AITオープンフォーラム(9/9)(京都タワーホテル) ◆関西支部総会開催(9/9)(京都タワーホテル) ▲三重AITオープンフォーラム(9/16)(四日市都ホテル) ▲岐阜AITオープンフォーラム(9/30)(岐阜グランドホテル) ◆教職員支部設立総会(9/29)(名古屋国際ホテル)
10月		▲北陸AITオープンフォーラム(10/7)(金沢都ホテル) ▲静岡AITオープンフォーラム(10/14)(浜松名鉄ホテル) ◆職場支部「愛菱会」(10/27) ▲中・四国AITオープンフォーラム(10/28)(岡山ロイヤルホテル) ◆中・四国支部総会開催(10/28)(岡山ロイヤルホテル) □愛工大祭 開催への援助
11月	第4回事務局会議開催(11/2) 第4回総務常任委員会開催(11/2)	▲私立大学同窓会連合会定例事務局長会議(11/17)
12月		□「みずわか vol.39」会員へ郵送

凡例: ○本部事業 □学内事業 ◆支部事業 ▲その他

会員計報	電気工学科	筒井 嘉彦(54E)	吉田 久美(H11C)	松岡 篤(58D)
	野々日勝美(41E)	奥村 信一(60E)	機械工学科	建築学科
	吉田 稔(42E)	則武 武男(H3E)	野沢 純(51M)	野々山和美(47A)
	脇本征一郎(42E)	田島 善治(H6E)	小橋 潔(53M)	松岡 直哉(50A)
	増田 勝年(43短大)	電子工学科	伊藤 勇(47K)	土居 弘之(50A)
	河戸 隆志(44E)	中村 篤司(47R)	伊藤 勇(47K)	岡西 秀行(55A)
	萩原 正宣(45E)	船田 友雄(47R)	出口 芳明(49K)	森本 一義(55A)
	新家 繁俊(46短大)	梅原 文雄(H11R)	高木 明彦(H4K)	廣田 哲(57A)
	武藤 敏広(47E)	応用化学科	土木工学科	鈴木 豊治(63A)
	倉澤 幸彦(47E)	宮本 武(42C)	小澤 正博(54D)	建築工学科
	倉澤 範男(49E)	浅生 和成(53C)	林 宣行(57D)	本多 健治(58B)
	水野 勉(49E)	出原 英治(62C)	鳥山 隆利(58D)	

平成17年度決算書 収支計算書 平成17年4月1日から平成18年3月31日まで ～経常経費～ (単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
入会金(基本金)	5,000,000	4,592,000	△408,000	
終身会費	25,000,000	22,960,000	△2,040,000	
年会費	10,000	0	△10,000	
受取利息	200,000	100,102	△99,898	
雑収入	0	0	0	
名簿売却収入	0	0	0	
当期収入合計①	30,210,000	27,652,102	△2,557,898	
前期繰越金②	62,141,237	62,141,237	0	
収入合計①+②	92,351,237	89,793,339	△2,557,898	
支出の部				
事業費				
学科・支部援助費	2,500,000	3,657,522	1,157,522	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
会報発行費	7,000,000	6,412,918	△587,082	
卒業記念品費	800,000	231,500	△568,500	
準会員支援費	900,000	865,000	△35,000	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,482,747	△17,253	
(小計)	13,300,000	13,249,687	△50,313	
事務費				
人件費	1,200,000	997,950	△202,050	
消耗品費	600,000	555,936	△44,064	
会議費	2,000,000	1,120,753	△879,247	
慶弔費	400,000	153,025	246,975	
私大同窓会連合会費	150,000	172,215	22,215	
雑費・手数料	100,000	158,705	58,705	
(小計)	4,450,000	3,158,584	△1,291,416	
予備費	400,000	0	△400,000	
基本積立金へ	5,000,000	4,592,000	△408,000	入会金
当期支出合計③	23,150,000	21,000,271	△2,149,729	
当期収支差額④(①-③)	7,060,000	6,651,831	△408,169	
50周年準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0	
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	66,201,237	65,793,068	△408,169	
支出の部合計③+⑤+⑥	92,351,237	89,793,339	△2,557,898	

平成17年度決算書 収支計算書 平成17年4月1日から平成18年3月31日まで ～基本積立金～ (単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費からの繰入	5,000,000	4,592,000	△408,000	
前期繰越金	165,064,087	165,064,087	0	
収入の部合計	170,064,087	169,656,087	△408,000	
支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	170,064,087	169,656,087	△408,000	
支出の部合計	170,064,087	169,656,087	△408,000	

平成17年度決算書 収支計算書 平成17年4月1日から平成18年3月31日まで ～50周年準備費～ (単位:円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費からの繰入	3,000,000	3,000,000	0	
前期繰越金	10,718,797	10,718,797	0	
収入の部合計	13,718,797	13,718,797	0	
支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	13,718,797	13,718,797	0	
支出の部合計	13,718,797	13,718,797	0	
次期繰越額				
内訳明細	金額			
基本積立金	169,656,087			
経常経費	65,793,068			
50周年準備金	13,718,797			
合計	249,167,952			